平成10年9月5日発行(年4回3-6-9-12月5日発行)通卷47号

# Children, Our Future

ともたちの見





カンポジア・チェンメン保育所 © 小林正典 Cheng Meng Child Care Center, Cambodia C Masanori Kobayashi

### 1998年9月 No.47 目次

2	Essay Support Never to Make Children Refugees Again Having Listened to CYR Overseas Staff Takako FUKATSU
4	Report What We Felt and What We Left in Japan Visit by CYR Overseas Staff
7	Report "CYCLO" News from Phnom Penh, Cambodia Michiko NOMURA
8	Series Reverberating Heart and Life By The Way NGO Does It Sivika PRAKOBSANTISUKH
10	Report Camp for Book Lovers Nitinun KANPROM

12 Latest Developments Summer Camp

エッセイ

CYR報告会に参加して 二度と「難民にしない」ための援助を 深津高子

日本で感じたこと、日本に残したもの 海外職員日本滿在記

続・しくろ通信 野村美知子

シビカ・プラコブサンティスク

#### レポート

本が好きになることもキャンプ ニティナン・カンプロム 最新情報

夏キャンプが開かれました

- - レポート
  - レポート

#### 連載

- 響き合う心といのち 「NGOのやり方で」

CYR海外職員報告会<br />
(6月2日・東京/真生会館)に参加して 度と 難 にしない

ための 爰

CYR理事・国際モンテッソーリ教師

深津高子

確 か

も子育てに男性が積極的にかかわってい 感じながら、 ました。日曜日のそれも、朝なのに学生の 姿も見え、 まず驚いたことは、 本当に久しぶりにCYRの報告会に出 若い人たちの参加を頼もしく 活動報告を聞きました。 タイもカンボジア

ŕ やブントゥアンさんの存在自身その顕著 んの姿の熱心なこと!!「子育てはお母さ な例です ることです。 育児の勉強などに励んでいるお父さ が、 職員のプーンサワットさん 現場でのおもちゃ作り、 大

めて思いました。 況さえも得られない日本の子どもたちは、 う。そういう意味で、こんな当たり前の状 今なんて貧しい環境にいるのだろうと改 なんと豊かで且つ自然なことなのでしょ 方の保護者と接しながら暮らせることは、 児期という人間の人格が形成される大切 な時期に、「お母さん」だけでなく男女双 なり、本当にうらやましい限りでした。対 ん任せ」傾向の強い日本の育児事情と異 次に感動したことは、ブントゥアンさ



小林正典 "What we shall do next is to help their selfreliance" © Masanori KOBAYASHI

日本からの絵本や紙芝居、 援助がどう役に立っているかなのです。 子どもたちの心身の成長に、 ます。しかし私が一番知りたいのは、あの 無かったことです。「どんな新しい試みに たらす最も確実な方法であることをだれ いくら使ったか」を報告する義務はあり もの様子や成長に関する報告がほとんど 宝石が見付かったときのように・・・ ません。まるでそれは、砂の中から光輝く う人との出会いを大切にしなければなり ンさんかも知れません。私たちはこうい との出会い、九二年にカンボジアに戻っ よりも確信しているのは彼、ブントゥア てのCYRへの参加。幼い子どもにかか いたこと。そして、そこでのCYRの保育 いでカオイダン難民キャンプにたどり着 ト軍によって殺され、彼自身も必死の思 で活動報告をされましたが、 わることが、 た。十五歳の時、両親が目の前でポル・ポ に彼の生い立ちを知ってびっくりしまし んの存在です。報告会では、控えめに英語 少し残念だったのは、対象となる子ど 真の平和をカンボジアにも エプロンシア 日本からの 後で個人的 いきましょう。 と「難民にしない」ための援助をCYR に笑っています。でも本当に彼らを二度 やっていくのなら、また心から平和を愛 ターに見入っている子どもたちは、

子どもたちのための環境を一緒に考えて えて書かせていただきました。より良き ていく子どもたちを応援するために、あ YRをそして何よりも、 ていることを願う大人の一人として、C 子どもたちの未来が、明るく希望に満ち 「こんな変化が見られるようになりまし の募金が、 た」のような報告によって、初めて私たち 助者中心の視点ではなく、 にそのプロセスを手伝うことです。「こん に役立っていると分かるのだと思います。 なことをしてあげました」という大人・援 ならないと思うのです する子どもたちに育つよう願うのならば、 しなくても、自分で考え、判断できるよう 次は彼らの自立のお手伝いをしなければ つまり彼らがいつも大人の指示に依存 本当の意味で自立のお手伝い 新しく国を担っ 子ども中心の、

> 子どもたちの明日 No.47 Sep.1998 Children, Our Future

2

# **Support Never to Make Children Refugees Again**

-Having listened to CYR overseas staff in Tokyo, July, 21, 1998-

Takako FUKATSU CYR Director/ Montessori Teacher



報告会で現地の育児事情を質問する筆者 The author, asking a question at the meeting

It was really a long time since I attended a CYR meeting last time. I listened to reports while finding it great to have many young people there on a Sunday morning.

I was surprised first by Thai and Cambodian fathers taking positive roles in bringing up children. Typical examples are CYR staffs Phoonsawad and Bunthoeun. We also saw fathers working zealously tackling toy-making, carpentry and learning about child rearing. It is quite different from Japan where child care is totally left to mothers!! What an affluent and natural life children are leading there as they spend their days with both parents instead of just mothers, especially during infancy when their character is shaped. From this point of view, I newly realized how deprived Japanese children are.

was Bunthoeun. He reported his activities quite modestly, but I learned later what he had gone through in his life. His parents were killed by Pol Pot soldiers in front of him when he was only 15, he fled Cambodia and managed to reach Khao I Dang Camp where he encountered CYR. He returned to his country in 1992 and joined CYR. He must be feeling more strongly than anyone else that involvement with children is the surest way to bring peace to Cambodia. We must cherish meetings with a man like him. It is like finding a diamond in the sand.

I was rather disappointed at hearing so little about children and their growth. CYR certainly has obligations to report how much they spent on which activity, but what I would have liked to know most was how our support is helping The next thing which impressed me children grow well physically and

mentally. Yes, children are smiling as they watch picture books, picture card shows and apron theater. But CYR was to offer support "never to make them refugees again" and to turn them into peace-loving adults, what we should do next is to help their self-reliance.

We would help them to reach the stage where they can think and judge things by themselves without adult guidance. Instead of reporting on what we did, I feel reports on what children can do now will help us realize that our donations are really being useful for helping them to become independent. I am writing this article as an adult who wishes for a bright and hopeful future for children in order to support them to continue shouldering a new nation and for CYR. Let us keep thinking about better environment for children of tomorrow.

з

## 日本で感じたこと、日本に残したもの ~海外職員日本滞在記~



CYR海外職員報告会 6/21(日) 東京都新宿区 真生会館 タイ職員報告会-6/18(木) 筑波大学 6/19(金) 東京都北区 北とぴあ 6/22(月) 新潟県国際交流協会 6/23(火) 秋田県国際交流をすすめる婦人の会 秋田経済法科大学 6/24(水) 弘前学院聖愛高校 カンボジア職員報告会 6/25 (木) 町田市 勝楽寺 7/2 (木) 呉市 神応院/呉あそか幼稚園 広島市 ひろしま国際センター 7/4 (土) 名古屋市 東輪寺 7/5 (日) 岡山市 岡山YMCA 7/6 (月) 福岡雙葉学園中学·高校

「プンちゃんてすごいんだよ。葉っぱで馬を作れ るんだよ」(町田市わかくさ保育園) "Wow, Bun-chan is great. He can make a horse with a grass leaf." (Machida).

AN 2 44 10 14 10 +W

Ð

性

使 修 所

船」の実演をしました。	たちが好きな「忘れてしまう歌」や「海賊	移動保育のビデオ上映や、タイの子ども	実際の活動の様子を伝えようと、村での	回は、写真や言葉だけでは伝わりにくい	様子とCYRの事業を紹介しました。今	ブラコブサンティスク)は、タイの農村の	ゴイ(前バンコク事務所所長 シビカ・	ました。	アから職員が来日し、各地で報告会を開き	六月の定期総会に合わせてタイとカンボジ
	まう歌」や「海賊	で、タイの子ども	えようと、村での	では伝わりにくい	昭介しました。今	は、タイの農村の	所所長 シビカ・		地で報告会を開き	てタイとカンボジ

77

穫をし 使 L な生活。 からは、 な 0 P. Ø スライド た教材作りなどの活動を紹介しまし 十分でない保育者養成の制度や保 がら、 y 予算を補うために、 7 ŀ 保護者も参加しての身近な材料を てから出勤する自分の生活を紹い、朝五時に起きてインゲン豆の ク 2 村の日常生活を伝えました。 でもタイは寒くないからまだ ムブンボ (タイ教材製作担当 0 -で村の 1,2 三十年前の日本と同じよ 様子を見た秋田 2 保母 1t への保育 ス ライド プレ 0 tr ŧ 研 育 収 充 ++-

アンは、日本もカンドジアニョンとうこ	平和を築いていきたいと訴えました。	ちには、保育を通して、自分も他人も同じ	おり、お互いを信じられない今、子どもた	た。多くの大人が同じような経験をして	ボジア保育事業担当しば、内戦のため家		業」の保育研修生として来日します。	から一か月間、「東南アジア保育支援事	ただきました。なお、レックは、九月中旬	新理事の高橋敬章さんのお寺に泊めてい	タイの職員は、東京滞在のうち三日間、	います。	イという国」を知ってもらえたことと思	は、一つの「発展途上国」ではなく、「タ	しまいがちです。報告会に参加した人に	が低い」というようなイメージをもって	ジアといえば、「発展途上国」=「識字率	感じた方もいたようです。一般に東南ア	めます」とゴイは答えましたが、意外だと	校は義務教育なので、ほとんどの人が読	お母さんは字は読めるのですか?」「小学	写真を見て、質問がありました。「タイの	村で母親が子どもに絵本を読んでいる	た。	展すると思います。」との感想がありまし	いいですよ。タイもすぐ日本みたいに発

4

#### ANNUAL MEETING AND NEW DIRECTORS

The 18th Annual Meeting was held on June 21 at Shinsei Kaikan, Tokyo attended by 25 in person and 192 by proxy. Director Reiko MATSUOKA assumed the chair, and 1997 reports and 1998 plans on business and accounting were proposed and approved. (For details, please read the Annual Report). Mr. Yoshichika YANAI who had been the director since 1982 resigned and three new directors were appointed.

Mrs. Sachiko OHI: Has worked as a volunteer for CYR translating newsletters and annual reports. Hopes to assist CYR by improving efficiency of office work and expanding activities.

Ms. Takako FUKATSU: Felt the need for peace education in childhood during her stay in the House of Hope at Khao I Dang Camp, and became a Montessori teacher. Is involved in Child Assault Prevention Program and improving cross-cultural communication.

Rev. Hiroaki TAKAHASHI: Vice-abbot of Shokouin Temple of Kouyasan Shingonshu Sect and is engaged in telephone counseling and networking as a permanent secretary of Buddhist Information Center. "Let's make it a group for which people will gather and work spontaneously and offer their services whenever they can."

> 報告会以外に、ブントゥアンは、保育園 加することに、とても感心していました。

小学校を見学し、

教具や教材が十分にあ

子どもたちと遊ぶ機会も得ました。

る日本とカンボジアの違いを実感しつつ、

報告会も女性が大半を占めました。

プン

、味をもち、

自主的に会合を開いたり参 女性が外国や社会の問題に

ゥアンは、

氏が退任し、新しく次の方々が理事に加わりまし 九九七年度事業報告・会計報告、一九九八年度事 生会館にて当日出席25名、委任状出席19名の参加 業計画・予算が審議、承認されました。(詳しい内 で開催されました。松岡玲子理事の議事により、一 大井幸子 た。(敬称略 容は年次報告書をご覧ください。)役員改選が行な 定期総会報告と新役員紹 n 第十八回定期総会が、六月二十一日、 八二年より理事の任に当たられた箭内祥周 東京の真

J°∫	るような	携わって	常任幹事	高野山	高橋敬章	プログラ	後モンテ	て、効児期	81年、1	深津高子	なものに	経営の経	
	るような、集まりやすく動きやすい会にしましょ	携わっている。「各人ができる時にできることをす	常任幹事を務め、電話相談やネットワーキングに	高野山真言宗正光院副住職。仏教情報センター		ブログラムや、異文化理解教育に関わっている。	後モンテッソーリ教師になる。子どもへの虐待防止	て、幼児期からの平和教育の必要性を痛感し、帰国	81年、カオイダン難民キャンプの「希望の家」に		なものにして、広めていきたいと考える。	経営の経験を生かしてCYRの活動をより効果的	
	やすく動き	人ができる	電話相談	光院副住		~ 化理解数	教師になる	和教育の	、難民キャ		めていき	LTCY	
	きやすいへ	る時にで	やネット	戰。仏教		い育に関わ	る。子ども	必要性を	~ンプの[		たいと考	Rの活動	
	会にしま	きること	ワーキン	情報セン		っている	への虐待	痛感し、	希望の家		える。	をより効果	
	L	をす	グに	9		0	防止	帰国	こ			米的	

1	-	TT	22	
15	ς.	爭	ш	
`	ŲΥ	を	呉	
集	る	務	言	
+	0	in	- 53	
ĥ	10	~~	2	
2	ti.	100	11	
10	Α.	电	尤	
3	が	話	院	
<	-7-	相	周日	
#h	3	55	(1);	
300	2	167	THE	
3	\$	2.	戰	
-12	時	不		
す	12	2	11.	
1.2	-12	ŀ	湖	
4	3	÷7	書	
1.2	Ş	í	50	
1-	0		和	
L	5	干	-tt	
^な、集まりやすく動きやすい会にしまし	ている。「各人ができる時にできることを	「事を務め、電話相談やネットワーキング	山真言宗正光院副住職。仏教情報センタ	
1	*	N	14	
6	1	1	1	

どの英訳をボランティアで引き受けている。会社

翻訳家。

CYRの

ニュースレター

年次報告な

する」。 げたところ「オークン・チュラン、 使ったポスター を試食したり、 ました。 いてとても驚いた。」と率直な感想もあり 互い分かり合えるはずだと感じたそうで 戦争の苦しみを体験したことを知 参加した小学生が、 披露など盛りだくさんの報告会でした。 ス東海の企画 ントゥアンも一瞬、 て開催されました。 自分は戦争の体験がないので、 名古屋では、 今日、 CYRの会員は女性が多いこともあり、 しかし、 母国語でありがとうと言わ カンボジアの内戦時の様子を聞 岡山では、 ASIAN PARTYの一回とし カンボジア語講座、 全員 が欲しいというので、 びっくり。 カンボジアのスープ カンボジア語講座で 参加で楽しむ 若い参加者から、 実感がな h, 宝物に 踊りの 71 れ お あ プ 2

たくさんの

人が、

4

感謝申し上げます

催のためにご尽力くださったみなさんに

会になったと思います。

各地で報告会開 身近に知る機

やカンボジアのことを、 海外職員を通して、

# What We Felt and What We Left in Japan

-Visit by CYR Overseas Staff -



タイのお遊戯「海賊船」を参加者とともに。 (東京での報告会) Playing a Thai game "Pirate Ship" with participants (Tokyo).

The staff from Thailand and Cambodia visited Japan to attend the Annual Meeting in June and to give reports in various places.

### Koi

or Sivika PRAKOBSANTISUKH (who was the head of Bangkok Office) talked about the village life and CYR activities in Thailand. By showing video on mobile child care in a village and giving demonstrations of "The song we forget" and "Pirate Ship", she introduced activities about which words and photos cannot convey fully.

### Lek

or Phoonsawad SOMBOONPHONG (who gives trainings in making teaching materials in Thailand) introduced the village life by showing slides of himself getting up at five in the morning and harvesting string beans before going to work. He also discussed about training of child minders to make up for inadequacies in the system and making teaching materials with parents' participation to make up for lack of budgets at child care centers. A woman in Akita commented that the life is similar to that of Japan 30 years ago, but Thais are luckier because of warm climate and Thailand will soon become a developed country like Japan.

A question was asked about a photo

of a village mother reading to children. "Can Thai mothers read?" Many seemed surprised to hear Koi answer that "most people can read because primary education is compulsory". General impressions about SE Asia seem to be that the area is a group of developing countries which mean lower literacy rate. Those participated in report meetings hopefully learned many things about Thailand, which is certainly not just another developing country.

Thai staffs stayed for three days with Rev. Hiroaki TAKAHASHI, a newly appointed director of CYR. Lek will come back for a month-long training in child care in mid-September sponsored by "Support Activities for Child Care in SE Asia".

### PROM

Bunthoeun (in charge of child care program in Cambodia) talked about his personal experience of losing his family and becoming a refugee because of the civil war. He said that many adults share similar experiences and cannot trust each other, but that he would like to teach children through child care that self and others are both important existence and to appeal for peace.

Through his visit to Hiroshima Peace Memorial Museum, he learned that Japan has also suffered from the war and felt that the two countries could understand each other better because of the common experience. But a young person in Okayama surprised him with a very frank remark that "having experienced no war, I cannot feel that it is the reality. I was shocked to hear the wartime stories of Cambodia".

In Nagoya, ayus Tokai invited them to their second Asian Party where Cambodian soup, Cambodian language lessons and dance performances were offered. Bunthoeun was pleasantly surprised when a primary school pupil thanked for the poster for Cambodian language lessons in Cambodian, "Okun Chraun, I will treasure it".

Audiences at report meetings were mostly women perhaps because majority of CYR members are women. Bunthoeun was impressed by the fact that Japanese women took keen interests in politics and foreign affairs, and the initiative to hold and attend meetings. In addition to report meetings, Bunthoeun visited child care centers and a primary school and had chances of playing with children. He was impressed by big differences between Cambodia and Japan with so many teaching materials and toys.

We thank all of you who generously supported report meetings in various areas and hope that the meetings offered opportunities of learning about Thailand and Cambodia.



カンボジア・プノンペン発 野村美知子 Michiko NOMURA Child Care Program Officer, CYK

務

4.0

1º

だと思う。

まずはそこ

ている。

ちょ

人やお金持

社会全体の

h



92年から3.年間のカンボジア赴任中に 筆者がつづった「しくろ通信」の続編。 プノンペンの街をゆったりと走るシクロ (カンボジア版人力車)に乗せて送ります。

ルとのたて所なたて折の

1

#### 街路樹に貼られた各党のポスター Posters pasted on the street trees

#### July 13, 1998 (US\$1=3,950 riels)

General Election is only two weeks away. In the last election, children at child care centers played "voting game" by folding pieces of paper and inserting them through slits on the floor and wainscots. I was impressed by the degree of awareness about "election" then. This time, children's reactions have not gone that far. Posters pasted everywhere and signboards and banners at political party offices do help to create the atmosphere. One occasionally come across parades of bikes and trucks handing out leaflets and calling out party names.

Giving and receiving money is commonplace. At political rallies in districts and communes, shirts printed with party marks, sarongs, seasonings, cash, etc. are distributed. A person who can collect votes in a commune is given a bicycle! An honest person admits "why shouldn't I accept a gift? You don't have to vote for that party, if you don't want to". "It isn't as simple as that. If you don't attend a meeting, then you will be labeled as anti— Party". That sounds convincing!?

"It's good to be able to hold an election. We are making a start. I definitely will go and vote." I agree, and pray everything will come to a denouement.

998年7月13日 1ドル=3950リエル	会では、政党マーク入りのシャツ・サロン
	金が配られる。村の中のグループで票の
秘選挙が二週間後に追った。前回の選挙では、保育所	る人には、なんと自転車が贈られたりして
子どもたちが「トーヒョーだよ」と言っては、紙を	「○○党は嫌いだと言う人が、どうして
リ畳み、床や羽目板のすき間に差し込んで遊んでい	もらうの?」「そりゃ、もらった方が得だ
ここまで「選挙」が行き渡っているのかと感心し	て投票しなきゃいいのさ。」正直に言う-
ものだが、今回は子どもたちの反応はそれほどでは	んなに简単には行かないんだよ。集会に
50	り物を受け取らなかったりしたら、ああ
面ではあちこちにボスターが貼られ、各政党の事務	○○党だなと目を付けられることになる
には看板や旗が立てられ、それらしい雰囲気になっ	ほど。
いる。時々、バイクやトラックを連ねて、ビラを配っ	選挙戦にまつわる不穏な事件が次々と
り政党名を連呼するパレードにも出会う。	る。殺人もある。結果によっての混乱を予
<b>高くのは、役所の正面が、現政権を担当している政党</b>	ろいろな物を買いだめする人が多いのも
垂れ幕・ボスター・色旗で華々しく飾られているこ	ている原因の一つらしい。お米の値段
。公務員イコール政党員なのだそうだ。「もしライバ	がった。田植え時期を前にして、日用の
<b>政党が勝ったらどうするの?」「みんな考えを変える</b>	くてはならない村の人たちはたいへんだ
たろうよ。」なるほど。	不安のため、強盗事件や発砲事件が増え
台省庁の役人も地方に出ての選挙運動に忙しく、業	うど夏休みの時期ということもあり、外
か滞りがちだと聞いた。村の小学校では、先生たち	ちの子弟は国外へ出る人も多いらしい。
心援に駆り出されて授業がストップしているところ	「でも、選挙ができるのはいいことだと
83°	からだ。絶対投票には行くよ。」その通り
昭市の受手は当たり前。 「部部や村部で改売が進す泉」	これに低ばこ冬つって、したけにりこう

想してか、

物価を上げ

報告されて

からね°」なる 行かなかった

からね。そしてこから物を

もいる。「そ

まとめができ

いるらしい

·調味料·現

子どもたちの明日 No.47 Sep.1998 Children, Our Future

7

響き合う心といのち

「幼い難民を考える会」が活動を始めて18年。 タイの難民キャンプ、タイやカンボジアの村々の子どもたち、 そして日本に定住したベトナム、ラオス、カンボジアの人たちとともに歩んできました。 それぞれの現場で、子どもたち自身がもつ「育つ力」に励まされながら 様々なかたちで会の活動に携わってきた人々が、 "いま"をどう生き、何を考えているかをご紹介します。

### NGO のやり方で

シビカ・プラコブサンティスク



正式にCYRで働くことにしました。 なってからです。三年後に大学院を終え、

R

のことを本当に理解したのは、

後に

ñ

時は、どう感じましたか。
とてもショックでした。帰ってから、そ
の気持ちをノートに書いたことを覚えてい
ます。自分の国でこんなことが起こってい
るのを初めて知りました。キャンプ内の人
たちは、自分で何の選択もできない境遇に
ありました。自分で何も決められず、ただ
用意された場所で暮らしているのです。な
んで、この小さな子たちが、こんな生活を
しなくてはならないのかと考えると、落ち
込みました。でも、そこで何が起こってい
るのかを見たくて、機会があるとキャンプ
に足を運びました。
日本人スタッフと一緒に働いてきてどう
でしたか?
私にとって、CYRは初めての職場だっ
たので、仕事のやり方や、いろいろなこと
を学びました。最初は、晴美さん(現事務
局長 関口)の秘書をしました。代理で会
議に出席させてもらったこともあります。
そしてNGOのやり方一政府機関のよ
うに指示通りの仕事をするのではなく、
自分たちで考え、計画を立て、実行してい
くーを身につけることができました。日
本人は経済最優先だとか、会社人間だと
か聞いていましたが、一緒に働いている
うちに、少しずつ、彼らも私も、同じ目的
のために心を同じにできるのだと分かっ
てきました。

Reverberating Heart and Life

It is 18 years since CYR started.

We have been working with children of Refugee Camps in Thailand and Thai and Cambodian villages, and with resettlers in Japan from Viet Nam, Laos, and Cambodia.

We shall see and hear how people who have been involved in CYR activities in various ways live and think "now" as they have been encouraged by the inherent power of growing children.

### By The Way NGO Does It

Sivika PRAKOBSANTISUKH

Sivika PRAKOBSANTISUKH (Koi) joined CYR Bangkok Office in 1987. For four years from 1994 to her resignation in July, 1998, she has worked for Thai villages as the head of DEC (CYR's Thai Division).

### What prompted you to work for CYR?

I started working as a part-timer while studying for a master's degree at a university by introduction of my friend's mother. Frankly, I was more interested in my studies and had little knowledge about Cambodian refugees, but I had lots of time and thought the job would be a good experience for me and my English. I came to really understand CYR only after many years. In three years, I finished my thesis and started working for CYR full time.

### What were your reactions when you visited the refugee camp near the border?

I was very much impressed. I remember writing down what I thought in a note book when I came home. It was the first time that I learned such things were happening in my country. People in the camp absolutely had no freedom in making choices. I felt so depressed when I wondered why such small children had to lead a life like that. And yet I visited the camp often to see what was happening there.

### Did you learn anything from the Japanese staff?

CYR was my first job and I learned many things including how to carry out work. In the beginning, I worked as a secretary to Ms. Sekiguchi (current Head of the Secretariat), and she let me attend meetings on her behalf. I learned how to work as a member of an NGO - not doing what one is told as in a government agency, but taking the initiative in planning and implementing. Although the Japanese are said to prefer economy first and foremost and put their company before everything else, I began to understand gradually that they and we had the same heart and worked for the same purpose.

### What about activities in villages which you started in 1990?

We conducted investigations in villages near the camp and started supporting local child care centers. The most difficult thing was to win understanding of villagers. It was necessary to tell about our objective in an easy-tounderstand way. There were many things that I enjoyed doing. For instance, I was always thinking of new things and carrying them out. I took up "mobile child care" when we visited a small village and saw how children enjoyed story telling with pictures. Being a small organization, we could consult and implement any new idea instantly and watch the reaction. It was really great!

### What is your hope for the future of CYR?

People used to ask why we were not doing anything for more destitute people like those in Africa instead of only in Thailand and Cambodia. I think that work like this cannot be stopped once it was started. It should continue until people in the community understand about child care fully and begin acting on their own. CYR has a definite objective of "working for children", and I hope it will continue to pursue it.



村の保育所で At a village child care center

9

# 本が好きになるこどもキャンプ

DEC 移動保育・移動図書担当 ニティナン・カンプロム

DEC(CYRのタイ事業実施部門)では、アラン ヤプラテート郡の小学校を対象に、約二百冊 の本の入った図書箱を貸し出す「回覧図書」 の活動をしてきた。村の小学生たちは、図書 や教材は不足しているが、知識や学ぶことへ の高い欲求をもっている。「こどもキャンプ」 では、そんな子どもたちが、本のおもしろさ を知り、読書の習慣を身につけられるような 活動を行なった。



「自然保護の場所」で、雑誌社の編集者から木の話を聞く。 At the base of Nature conservation, children listen to the story of a tree.

2 27

郡内十七の小学校の四、六年生、五十三人が、 我内十七の小学校の先生や村の人の協力で 会場の準備は、学校の先生や村の人の協力で 行なわれ、寝泊まりする教室に電灯を取り付け 行なわれ、寝泊まりする教室に電灯を取り付け たり、仮設の水浴び場を作った。お母さん方は を担当した。

答えが出ることも。 語の一部分をスタッフが読み上げ、 どもたちが 本当によく読んでいたようだ。 て答えていた。 抗でその題名を当てる。 最初に、 本のタイト 回覧図書 時には、 この ル当てクイズをした。 子どもたちは先を争っ で読んだことのある物 読み終わらないうちに 年間、 図書箱の本を グループ対 7

2 28

で子どもたちは話を聞く。で子どもたちは話を聞く。

を開き、それぞれが自然についての詩を作った。では、二つの課題があった。「自分」という題では、二つの課題があった。「自分」という題で作品を作ること。「自然保護の場所」では、ヒトの体の器官の仕組み

12

絵の具、 to З りのない観察や考え方を感じさせた。 どもたちが作る物語は、 ようならを言った。「また会おうね。」 のなかった新しい友達に、 いの形で、 た。 夫をこらして、 ことをまとめて一冊の本を作った。 2 「星グループの本」より た。 とスタッフの人が言った。 さびしかった。「出会いがあれば別れがある」 所をまわった。どこもとってもおもしろかっ 起きる予定だったけど、ぼくたち男子は三時 ろできなかった。でも、二日目は、朝五時半に キャンプは郡の初等教育長のあいさつで閉会 用意もした。最後の日は友だちと別れるのが た。その日はキャンプファイヤーの出 した。一日目は最初だったのであまりいろい 最終日は、 に起きた。ウォークラリーをして、四つの場 1 まわりの音を聞き、 こどもキャンプに行った。いろんなことを 中身は、 トなどをもらい、 子どもたちは 色紙などを使ってきれいな本に仕上げ 三日間のキャンプでの印象を表現し 各グループで、 絵や詩、 木の葉や花びらを集めてきて、 短編、 三日前までは会ったこと 協賛企業からの鉛筆や 素朴な言葉で、 短い作品を書いた。 再会を約束して、 手紙など。 キャンプで感じた それぞれ工 し物の 思い思 こだわ T. ž

1.1

た。経験と想像力が大切だそうだ。目を閉じ

「文学の場所」では、作家になるための話を聞

# Camp for Book Lovers

Nitinun KANPROM Mobile Library Program Coodinator, DEC

DEC (CYR in Thailand) has been loaning library boxes containing about 100 books per box to primary schools in Aranyaprathet. Village children are highly motivated for acquiring knowledge and learning, even though they do not have sufficient books or teaching materials. Children's Camp offers opportunities to find out the joy of reading books and acquiring habits of reading.

### February 27

From 17 primary schools, 53 fourth to sixth graders came to Klongyang Primary School with their teachers. Children were trying their best to become friends with people whom they met for the first time.

Teachers and villagers helped to set up the site by putting up electric lamps in the school room and a make-shift bathing place. Mothers prepared meals and village police watched the place for two nights and three days.

We first played "Guess the Title". As a portion of the book which children have read from the library boxes was read aloud, groups competed to guess the title of the story. Some guessed it correctly even before reading was finished. For the past year, children seem to have read books widely.

### February 28

Children arose early the next morning and started on Rally Walk with box lunches. Using a map, children found trees with signs and answered quizzes. Resource persons were posted at four bases. They were the experts of science, fine arts, nature conservation and literature.

At the base of science, children learned how the human body was made up and answered questions. At the base of fine arts, there were two problems. One was to draw a picture entitled "Self" and another was to create something using materials which they could find there. At the base of nature conservation, they listened to the story of trees and made up poems about nature.

At the base of literature, they were told how to become a writer. Experience and imagination were crucial. They closed their eyes, listened to the surrounding noises and wrote a short story. Children's stories used simple words, frank observations and thinking.

### March 1

Each group made up a book on what they thought at the camp. They used leaves, flower petals, paints, color papers, etc. to make up beautiful books containing pictures, poems, short stories and letters. Children expressed their impressions of the 3-day camp in various ways.

From the "Book of Star Group"

I went to Children's Camp. We did a lot of things. On the first day, I couldn't do what we planned. On the second day, we boys awoke at three although we were supposed to rise at 5:30. We went to four places during the Rally Walk and all the places were great fun. We prepared for the program of the camp fire. On the last day, I did not like parting with friends. A staff said "we meet, and then part".

The camp closed with greetings from the Head of Primary Education. Children received gifts of pencils and note books from supporting corporations and said good byes to friends they met only two days ago.



学校の許可をもらい、校舎の壁に絵を描いた。 Children painting a picture on the school wall with the permission from school.

### Latest Developments



### Summer Camp

The 4th CYR Summer Camp was held on August 1 and 2 in Akagi, Gunma Prefecture. A total of 56 including primary school children from 11 families of Laos, Cambodia and Vietnam, Japanese students and volunteers participated. Outdoor cooking session was held with help from mothers representing various countries to prepare fried noodles, balsam pear soup, Vietnamese spring rolls, pork miso soup, etc. Wearing costumes, people sang and danced around the camp fire, both young and old enjoying themselves tremendously.



子どもた	ちの明日
Children, C	Dur Future
CYR New	vs No.47
発行日	Published
1998年9月5日	September 5, 1998
発行人 🛙	Publisher
深水正勝	Masakatsu Fukamizu
編集責任者	Editorial Director
関口晴美	Harumi Sekiguchi
翻訳	Translation
大井幸子	Sachiko Ohi
印刷	Printing
(株) 三興印刷	Sanko Printing Co., Ltd.
発送	Circulation
CYR ボランティア	CYR Volunteers
	and the second se

定価200円(会員は会費に含む)¥200 (included in membership fee)



東京事務局 〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2 ☎ 03-3353-9947 FAX 03-3353-9739 E-mail:cyr@mtb.biglobe.ne.jp

#### ば は した たりしました。大人も子どもも大盛り上が た衣装を身につけ 作りま 社会人など計 園で行なわ 夏キャンプが開かれまし やニガウリ た11家族 月 [*1*L 各国 カンボジア、 回目を迎えるCYR夏の交流キャン 日から た。 0 お れました。日本に定住しているラオ 運営ボランテ + 母 Ó 56 ヤン さんたちの指導のもと、 泊 ス 人が参加しました。 ~ てダン 1 H ŀ プ ブ ナムの 7 Ċ スを 7 生春巻き 群馬県の赤城林間学 1 1 アの日本の学生や 小中学生を中 ヤ L たり I では 豚汁などを 野外炊事で 歌を歌 焼きそ 用意し 1) いと



キャンプファイヤーでのダンス Dance around the camp fire

### CYRの活動をご支援ください Please Join CYR

年会費 Membership Fee per year 正会員 Regular member ¥10,000 学生会員 Student member ¥3,000 費助会員(団体) Supporting member (Organization/Corporation) ¥30,000 費助会員(個人) Supporting member (Individual) 規定なし Any amount 下記の口座に「入会」とご明記の上ご送金ください。 Please send the money to the following account; 郵便振替 口座番号 00110-8-36227 Postal Transfer: PO Acet. No.00110-8-36227 銀行振込 第一勧業銀行広尾支店 普通 1280817 Bank Transfer: Daitchikangyo Bank Hiroo Branch Savings Acet. No. 1280817 **幼い難民を考える会**は、難民になったカンボジアの子どもたちがけんめい

ADV 雑氏を与えることは、難民になったカンホシアの子ともたらかけんめい に生きようとする姿に触発され、1980年に組織されました。1992年までタ イの難民キャンプで保育センターを運営してきました。現在はタイとカンボジ アの農村で、子どもたちが健やかに育つことのできる場所づくりをめざして、 主に村の保育所を中心に、子どもと女性を対象とした活動を続けています。

 Head Office :6-2, Minamimotomachi, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0012, Japan
 Aranyaprathet :C/O Mr. Munee Bunkua 3-8 Khang Wat Luang, Aranyaprathet, Srakeaw 27120, Thailand 2 37-231-344
 Phnom Penh :No.98 St.432 Sangkat Toul Tumpoung II, Khan Chamkar Mon, Phnom Penh, Cambodia 2 23-210849

最新情報

m